

1 電気洗濯機で洗濯を行っているとき生地は傷みより先に布がほつれてきて、使用不能になる事が多い。そこで縫方の適否によってはこれを防ぐ事が出来るのではないかと、又洗濯機の種類によっても違いがあるのではないかと思ひこの実験を行った。

以上のような目的であるので普通家庭で行う洗濯を基準とし、縫方も普通に行われている方法によった。

2 資料として旭ペンベルグ、スフモスを用い10cmの布に各種縫方の雛形を作りこれを別布に貼付し洗濯した。

縫方の種類は合せ縫(裁断のまま、ピンキング)伏縫、割伏縫、袋縫、三ツ折ぐけ、まつりぐけ、千鳥ぐけ、玉縁レース付け、バイヤス、二度縫いの12種類とした。

家庭用電気洗濯機(噴流、振流、攪拌)を用い各機とも基準の浴比、時間を用い1回毎にすすぎ、絞り、乾燥をし、60回の洗濯をした。

3 洗濯機の種類によってほつれの状態が違ふ、程度の差があるが20回位までにほつれがひどく表れ、それ以後は少くなる。縫方の適否がある事が分った。洗濯機で洗濯をする衣服の縫製については考えなければならぬ事が分った。